

北海道産希少着生シダ4種(スギラン、クロノキシノブ、ヒメノキシノブ、ヒメサジラン)の新産地および分布について

江別市 嶋崎 太郎・江別市 藤田 玲・倶知安町 矢吹 全
千歳市 木村 耕・札幌市 平野 遙人・札幌市 小野 波龍

筆者らは北海道において記録が少ないとされる着生シダ4種(スギラン、クロノキシノブ、ヒメノキシノブ、ヒメサジラン)について、これまで記録のなかった地域で自生地を発見した。これらは貴重な記録であるため、ここに報告する。なお、採取した標本は北海道大学総合博物館陸上植物標本庫(SAPS)に収めた。

1 スギラン *Phlegmariurus cryptomerinus* (Maxim.) Satou (図1、図2)

スギランは、ヒカゲノカズラ科ヨウラクヒバ属の植物で、国内では北海道~九州、屋久島に分布しているとされる(海老原 2016)。環境省レッドリスト 2020 では絶滅危惧 II 類(VU) (URL; <http://www.env.go.jp/press/107905.html>; 2021年12月15日確認)、北海道レッドデータブックでは絶滅危急種(Vu)に指定されている(北海道 2001)。

本種の北海道における分布は渡島・松山(奥尻)・胆振・日高・南千島とされる(伊藤

ら 1985、梅沢 2015、海老原 2016)。また、SAPSを調べたところ奥尻町、長万部町、白老町、新冠町、様似町の標本が確認された。筆者らは函館市、八雲町(旧熊石町)、千歳市の3市町で本種を確認した。このうち千歳市の記録は石狩地方初記録かつ現時点での国内北限の記録となる。また、函館市および八雲町の確認は、既確認地域と本州間の分布空白域を埋める発見となった。

矢吹は、2015年11月、千歳市水明において直近の強風により倒れた倒木に着生している本種6個体を確認した。これらは倒木の根元から約8-12mの位置にイワオモダカと一緒に着生していた。標本は2016年4月に藤田が再訪した際に採取した。なお、この倒木は2017年11月に矢吹が再訪した際には撤去されており、本個体群も消失してしまった。

嶋崎は2021年4月に八雲町熊石泉岱町において、ミズナラの樹幹に着生している本種1個体を確認した。本個体は根元から



図1 スギラン(八雲町) 2021年11月 嶋崎撮影



図2 スギラン(函館市) 2021年7月 木村撮影